

東京都立国分寺高等学校

伊豆諸島・小笠原諸島における天然記念物カラスバトの
保全生態学研究および生徒主体の啓蒙活動



武蔵国分寺の境内入口

謎多き鳥の生態解明に挑む

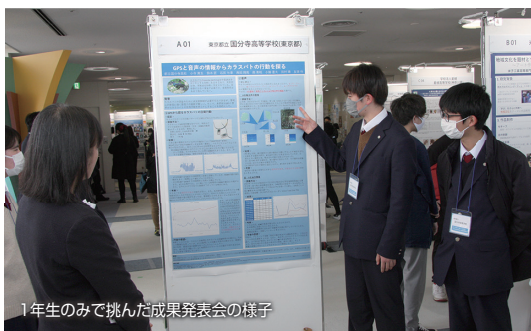
GPS導入で研究が大きく進展

部員60人を擁する東京都立国分寺高等学校生物部では、各々の興味に応じてビオトープ班や骨格標本班などに分かれて多様な研究をしている。なかでも10年以上続くカラスバト班の研究は、2023年度中谷財団成果発表会で日経サイエンス賞に輝いたほか、日本鳥学会などでも各賞を受賞している。

とはいえ、担当の市石博非常勤教員は「特に研究が進んだのは助成金でGPSを導入したこの1~2年です」と話す。以後、GPSでカラスバトの季節ごとの活動時間などを観測。石炭七季さん(1年)が「研究発表会で受けた『気温との関係も調べてみたら』というアドバイスから、一日の気温差と活動に関係がある可能性が見えてきました」と言うように、研究の幅も広がっている。



生物部で最多の部員が携わるカラスバト班。「小学生のころから鳥が好き」(相田麻衣さん、南青帆さん)「鳥と恐竜の関係に興味がある」(納谷利子さん、西田翔馬さん)といった鳥好きが多い



1年生のみで挑んだ成果発表会の様子



伊豆大島にある都立大島公園での鳴き声調査

カラスバト研究の最前線

GPS観測と並んでカラスバトの鳴き声調査も進めており、部長の相田麻衣さん(2年)は「伊豆諸島での野生個体フィールド調査に先駆けて、動物園の飼育個体で鳴き声と行動の関係を調査・考察しました」と話す。というのも、カラスバトは警戒心が強く、事前準備なしで野生個体を観察するのは困難を極めるためだ。

この困難さのため、研究者に敬遠されがちなカラスバトの生態解明はほとんど進んでいない。相田さんや他の部員たちは「そんな手つかずの研究に挑んでいることが学会などで評価されたのではないかと各賞受賞の理由を自己分析する。さらに、「仲間らと力を合わせて、誰も解明していないことを明らかにしていくおもしろさを知ってほしい」という市石教員の期待に応えるかのように、「カラスバト研究に関しては自分たちが最前線にいる、ということに魅力を感じます」と部員たちは口を揃えていた。(プログラム助成2年目)



GPSをつけたカラスバトによる島間の渡りも観測できた



NHK「ターウィンが来た!」の取材を受ける部員



●実施担当

市石 博 非常勤教員

●活動のモットー

師弟同行。生徒と同じ目線で活動するとともに、生徒と専門の研究者、あるいは先輩後輩など生徒同士をつなぐのが教員の役割。



教育目標は「[知・情・意]を兼ね備えた人間の育成」。東京都教育委員会が指定する「理数教育重点校」3校のうちの1校。

設立: 1969年
生徒数: 947人
所在地: 東京都国分寺市新町3-2-5

学校概要

この活動は、中谷医工計測技術振興財団の「科学教育振興助成」により行われています。



公益財団法人

中谷医工計測技術振興財団

〒141-0032 東京都品川区大崎1丁目2番2号 アートヴィレッジ大崎 セントラルタワー8階

中谷財団

検索

シスメックス株式会社創立者の故・中谷太郎氏が私財を投じて設立。医工計測技術分野の発展を願い、「中谷賞」をはじめ各種研究助成、若手研究者支援や国際交流事業を展開。さらに、すそ野拡大のため、科学教育振興活動などに対し、幅広い助成事業を行っています。

